

「Abdominal Ultrasound—A Basic Textbook」

札幌医科大学名誉教授・機器診断部 福田 守道

Professor of Clinical Ultrasound, Department of
Imaging, Royal Postgraduate Medical School at
Hammersmith Hospital, London, UK

David O. Cosgrove

著

前千葉大学教授・内科学

大 藤 正 雄

世界の超音波医学界の泰斗である、わが国の福田守道名誉教授と英国の David Cosgrove 教授の共著「Abdominal Ultrasound」が、今回医学書院から英文で出版され、通読する機会を得た。

腹部超音波の基礎から臨床応用まで要点をとらえて簡潔に記述し、病変をわかりやすい症例写真と図を用いて説明しており、英文著書であるといった言葉の壁をほとんど感じさせない内容である。高い学問的レベルを保ちながら実用性を備えているといったことで、著者の長年の超音波に対する研鑽の成果と臨床経験の蓄積が凝集したものと言える。腹部超音波の臨床にかかわるだれもが一度は目を通すに値する著書である。

「A Basic Textbook」の副題があるとおり、腹部超音波に関する基本事項を網羅してまとめており、腹部超音波をこれから学ぼうとする者にとって格好の手引き書となり、その内容をよく理解すれば、豊富な経験を持つ専門医に匹敵する知識を身に付けたことになる。その後は実践により磨きをかけることで立派な専門医が誕生することになる。一方、既にかかなりの臨床経験を持つ専門医であれば、平素、頭の中に未整理で

十分に咀嚼せずに放っておいた事項をきちんと理論的に裏打ちされた形でまとめることに役立つことになる。また、必要な箇所では、吟味した文献が引用されており、専門医にとってありがたいことである。座右において繰り返し目を通す専門書として大いに役立つに違いない。

各編に目を通すと、「Chapter 1, 2」では超音波の基礎についてまとめられており、超音波医学の過去から現在までの発展の過程がわかりやすく解説されている。また、現在一般に広く普及しているリアルタイム超音波装置が、電子工学的にどのような開発の過程を経て進歩してきたのか、画像描出にあたって注意すべき事柄といったことが模式図によって簡明にまとめられている。これらは、リアルタイム超音波装置を実際に応用するにあたって、何か問題があるとき、その解決に大いに役立つことになる。実際に画像を描出するにあたって、まず心得ておくべき様々な artifacts、病変を正確に表すための走査手技、続いてでき上がった画像を判読するポイント、などなどの問題について懇切丁寧な説明が加えられている。

臨床編では肝、胆道、脾、脾、腎・

後腹膜腔、消化管といった臓器別に正常解剖像と代表的疾患の病的像が、それぞれの特徴をとらえて見事な症例写真と解説によって呈示されている。各疾患の病理肉眼所見を目の当たりにしている感じさえするほどで、それによって超音波が病変の描出に優れ、高い信頼性を持つ診断法であることを理解することができる。

臨床編の最後には超音波内視鏡による消化管疾患の診断の項目が加わっており、超音波が臓器専門分野に一段と深く立ち入って応用されている状況が明らかにされている。超音波が総合診断から特殊診断まで、広い範囲にわたって応用される手段となっていることがわかる。

本書は、リアルタイム装置を応用した腹部超音波が現在の臨床に大きく貢献し、必須の手段になっていることを教えてくれている。超音波の臨床にすぐにも役立つ立派な著書が世に出たことを心から喜ぶものである。

●B5 頁 376 図 410 写真 421 表 11 1997 定価(本体 17,500 円 + 税) 〒400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)